



# 第 3 章

## としま学びスタイル の実現に向けて



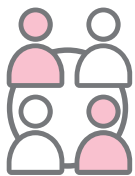
## 3-1 としま学びスタイルの基盤をつくるために

としま学びスタイルの実現は、行政と区民や様々な主体が連携・協働して目指していくものです。前述した「つどう」「つながる」「つくりだす」の方針から、学習・スポーツ課として、学びの循環を広げるために次のような取組みを行っていきます。

### 取組み1

## としま学びスタイルの担い手を増やし広げる

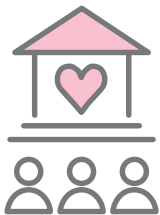
1



### 人と人とのつながりで、 としま学びスタイルの担い手を増やす

都市型生涯学習が展開される豊島区では、その時々に応じて、柔軟に学ぶ内容、学び方、関わり方などを変えながら、学びで一人ひとりと地域をゆるやかにつなげます。誰もがとしま学びスタイルの担い手なのです。

2



### つながりを生み出す学びの場で、 としま学びスタイルの担い手を広げる

としま学びスタイルの担い手をひろげていくために、トライ＆エラーが認められる居心地の良い場や自分自身も楽しめる場をつくります。楽しい、という思いは学びの大きなモチベーションでもあり、その楽しさを仲間と共有することで、持続可能性のある活動へとつながっていきます。そして、その中で試行錯誤しながら、学び方を学び、自ら課題を発見していける学習へと発展したり、違いを認めあい尊重しあう力を身につけていく「深い学びの場」を担保していきます。



### 具体例

## としまコミュニティ大学 マナビト生の活躍の場の拡大

としまコミュニティ大学では、2年間登録して学ぶことのできる「マナビト生」制度を導入しています。この制度は学びを通じて、受講生同士がゆるやかにつながり、地域づくりや地域課題を継続的な学びで解決していくための制度です。多様な学習ニーズを持った人々がゼミ形式で学びあうことで、学んだ成果を地域に還元し、豊島区の魅力を発信しています。



### 具体例

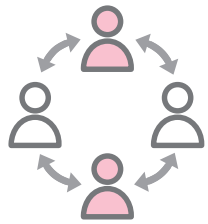
## 若者学びあい事業ブックカフェ

閉校した小学校を活用したみらい館大明では、区とNPO法人いけぶくろ大明との協働事業として「若者学びあい事業ブックカフェ」を実施しています。ブックカフェでは「つどう・つながる・やってみる」をコンセプトに、学びをとおして若者と地域をつなげるために若者自身が主体となった取組を行っています。コーディネーターも常駐し、若者に伴走しながら、サードプレイスとしての機能も果たしています。



取組み 2  
学んだ成果を  
発信する機会を広げる

1



**学んだ成果を発信する機会を増やす  
ことで、学びの循環が創出される**

学んだ成果を外部へ発信すること、そして学んだことを生かして実践すること、さらに改善していくことを通して、自分や自分たちの学びを別の視点から見て、その価値を再認識することができます。そして、自分や自分たちの学びが他の人の学びへどうつながっていきけるかを発見し探求することが次へのステップへとつながっていきます。このように、「学ぶ、発信する、活動する、ふりかえる、そしてまた学ぶ」という営みで学びを縦横に広げていきます。

2



**学んだ成果の発信を広げることで、  
一歩先の学びへ**

経験の意義や価値を言葉にし、学びを「見える化」することで、他者とのふれあい、他者から認められる機会があるということが重要です。学びあいから異なる観点や取組みの意義を深耕し、共有して、学びをふりかえることで、次の新しい学びや活動へつながる機会となります。



具体例

地域文化創造館  
エリアガイドボランティアの取組み

地域文化創造館では、豊島区の魅力を内外に発信するために、区内に4団体ある「エリアガイドボランティア」とともに活動を行っています。地域について学んだ成果を発信することはもちろん、「オールとしま」の視点での活動を目指し、フォローアップ研修では4団体合同での研修や積極的な情報交換、近隣区で同様に活動を行う団体との交流、区内大学や高校とのタイアップなどが意欲的に行われています。区民が主体となって、区民ならではの地域ニーズをつかみながら、持続的に自立して続けられる活動の重要性が高まっています。





### 取組み 3

## 多様なネットワークを 重ねて広げる

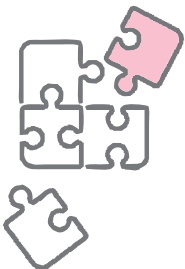
1



### ネットワークを多角的に増やすことで、 新しい価値を創造する

様々なコミュニティをつなげていくことでネットワークを広げていきます。異なる職業、世代、経験などを持つ人々が交流することによって新しい価値を生み出します。区内では区民や区民団体、行政、企業、NPO等による個々の活動もあれば、協働の活動も展開され、多様な学びと活動の循環が生まれています。この循環をより促進させるために、意図的に結び付けていく働きかけが必要です。

2



### 地域で豊かなネットワークを広げる

一歩先の学びに向けて、お互いの学びを語り聴きあうことに取組みます。この取組みを重ねることで、地域で豊かなネットワークが構築されていきます。こうしたネットワークの機能は、すでに区民主体により運営実績を積み上げてきたみらい館大明が、行政とともに担ってきています。今後、みらい館大明のネットワーク機能の強化が、ビジョンの実現に欠かせません。

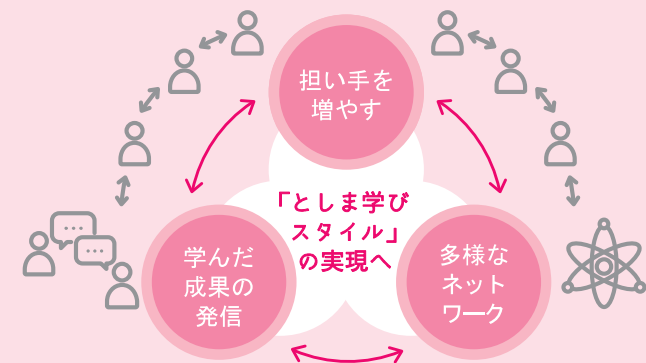
### 具体例

## 学習ネットワーク交流会

年に1~2回開催する学習ネットワーク交流会では、生涯学習センター事業の一環として、学習者・学習支援者・講師(指導者)・施設運営者・職員が一堂に集い、学びを軸としたネットワークづくりを広げていきます。生涯学習という大きな枠を十分に生かし、幅広い属性の人々をマッチングすることで、自分たちの活動をふりかえり、新たな価値をつくりだす学びにつなげています。



これらの「としま学びスタイル」の実現のための取組みは、少しずつ重なりあいながら、包括的に進めていくことが大切です。これにより、お互いの活動を刺激しあいながら相乗的・効果的に進め、学びの循環(わ)を広げ高めていくことができます。



## 3-2 評価体制

ビジョンの達成状況の把握については、今後の生涯学習推進協議会において評価方法を検討します。令和7年度に、それまでの達成状況を評価し、その結果を踏まえて次期計画に反映させていきます。



### としまコミュニティ大学 マナビト研究生による 生涯学習の調査・研究・発表

「としまコミュニティ大学」での学びをスタートにゼミでの活動で学びあいを深め、その後も「マナビト研究生」という100人を超える人々が学びあいを継続しています。

マナビト研究生は、平成30年度にゼミ形式で「生涯学習センター研究のための学びと実践」をテーマに学習活動を実践しました。区内の生涯学習施設を自ら調べ、聞き取り調査をした内容を生涯学習推進協議会においてプレゼンテーションしました。その際、報告だけにとどまらず、課題分析や提言など、これまでゼミ形式で学んできた学習の成果が発揮されていました。

「としま学びスタイル」を実現していくためには、マナビト研究生のような、主体的に学びあいを継続していく人々の存在がとても大切です。

実際、マナビト研究生を対象としたアンケートによると、何らかの地域活動に参加している割合は64%であり、区民を対象とした調査での37%という回答と比較し、参加率が高くなっています。課題が複雑化している現代を生きるためには、学びあうことで得た力を生かしながら、より確かな選択をしていくことが求められています。

個人の生活も豊島区というまち自体の在り様も、学びあうことでより豊かにしていくことができるのではないのでしょうか。マナビト研究生の皆さんが育んできた力が、より多くの区民の学びあいを支えていくことにつながる仕組みづくりが、求められています。

